

【日本の大学】第76回——埼玉大学：首都圏活性化の中核拠点担う

埼玉大学は、首都東京の北に隣接する埼玉県の県庁所在地さいたま市に本部を置く中堅の国立大学である。古くは、1873（明治6）年に設立された学校改正局や、1921年に開校した旧制高等学校である官立浦和高等学校などを淵源として、1949年に新制の国立大学として発足した。現在は、教養、教育、経済、理、工の5学部と、人文社会科学、教育学、理工学の大学院3研究科を擁する総合大学である。

基本方針として大学は、「知の府としての普遍的な役割を果たす」「現代が抱える課題の解決を図る」「国際社会に貢献する」ことを掲げている。その中で、首都圏の一角を構成する埼玉県下唯一の国立大学という特性を活かし、地域社会のニーズに応じた人材育成と研究開発を行って、広域地域の活性化中核拠点としての役割を担う点などを強調している。

以下、埼玉大学のホームページなどから、大学の歴史と現況を概観してみよう。

新制大学として発足した時は、文理学部と教育学部の2学部であった。文理学部は官立浦和高等学校の流れを受け継ぎ、教育学部は埼玉師範学校と埼玉青年師範学校を統合する形で発足した。



大久保キャンパス正門

伝統の下、教員養成に特化

教育学部は伝統を誇る学部で、その前身をたどると 150 年もの歴史を誇る。県内の小学校教員を養成するために、1873 年発足した学校改正局が始まりで、翌 74 年には埼玉県師範学校と改称された。以後、埼玉県小学師範学校、埼玉県尋常師範学校、埼玉県師範学校と名称を変えた。1901 年には女子の師範学校が設立され、この両校が 1943 年に統合されて埼玉師範学校となって第 2 次大戦の終戦を迎えた。これとは別に、1911 年に埼玉県実業補習学校教員養成所ができてからの流れは、1944 年に埼玉青年師範学校となり、こちらも教育学部設立へとつながっている。

現在、教育学部は、「学校教育教員養成課程」と「養護教諭養成課程」がある。学校教育教員養成課程は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、養護学校の教師、および保育園の先生を養成することを目的としている。それぞれの専修・コースに関連した教科専門科目と教員として必要な生徒指導・教育方法などの教職専門教育により、高度な教育実践力を備えた教員養成を目標としている。

養護教諭養成課程は、子どもたちの健康と安全をサポートし、さまざまな学校の「学校保健活動」の中心となる養護教諭を養成する。最近の、心の健康問題、薬物乱用や性に関する問題行動など多様な課題に対応できる専門的な知識を身につける。また、担任や地域医療機関、保護者などと連携をとりながら、子どもたちの健康と安全を支援・指導できる力も育てる。

学部では、すべての学生を多様な学校種における主体的で豊かな人間性を身につけた力量ある質の高い教員を養成することを目的としている。学部生全員を教師に育てるという「教員養成に特化」した、全国でも数少ない教育学部であることを特徴にしている。

教育、文理両学部が続いて 1963 年には、3 番目の学部として工学部が設置されている。機械工学科、電気工学科が置かれ、翌年には応用化学科が設置された。

文理学部は、1965 年に改組されて、教養学部（教養学科）、経済学部（経済学科、経営学科）及び理工学部（数学科、物理学科、化学科、生化学科、機械工学科、電気工学科、応用化学科、建設基礎工学科）を設置した。理工学部の誕生によって、工学部は一旦廃止されている。



大学図書館

世界に羽ばたく技術・研究者を育成

理工学部はその後、1976年に理学部と工学部に分離し、理学部には数学、物理学、化学、生化学専攻のほか、77年に生体制御学科を設置した。1995年には数学科、物理学科、基礎化学科、分子生物学科と生体制御学科の5学科に改組している。理学部の学部教育では基礎的知識と技術の学習のもと、論理的・抽象的思考能力、課題探究・解決能力といった社会に出て第一に求められる能力の養成に努めている。大学院までの一貫した教育プログラムを提供し、それぞれの専門分野の知識を核にして、世界とコミュニケーションできる人材の育成を目指す。

工学部は現代社会が遭遇する諸課題を科学技術の立場から解決し、未来の幸福な社会の構築に貢献できる、世界に羽ばたく科学技術者・研究者の育成を目指している。現在の学科は、機械工学・システムデザイン学科、電気電子物理工学科、情報工学科、応用化学科、環境社会デザイン学科の5学科で構成されている。

機械工学・システムデザイン学科は、「材料と機械の力学」、「エネルギーと流れ」、「情報と制御」、「設計と生産」を中核とする学科専門科目や、新たな技術システム・社会システムを創造・デザイン・マネジメントしていくための方法論・手法を学ぶシステムデザイン関連

科目を学ぶことができる。

電気電子物理工学科は、グローバルに発展する社会・経済の根幹を支える電気・電子・情報通信関連分野の基礎知識と基礎技術、技術革新を生み出せる創造的能力、などを備えた人材を育成することを目指す。情報工学科は、時流の変化にも対応できる真の基礎学力と、素養に基づいた豊かな応用力を身につける教育に力を注いでいる。また、応用化学科は、教育と研究を通して人材と材料&技術を「作る、造る、創る」を目指している。

環境社会デザイン学科では、土木工学の体系に地球科学の領域を加え、さらに環境工学の分野を充実させた組織構成を取り、次世代を担う国際的に活躍できる高度技術者の育成を目指すとともに、研究活動を通じた社会貢献を行っている。都市・地域の社会基盤整備に関する科目に加えて、建築士受験が可能となる建築系科目の両方を学ぶことができる。



春のキャンパス風景

幅広い領域をカバーする教養学部

教養学部は、人文科学系の学問である哲学、歴史、文学、言語、文化研究と、社会科学系の学問である社会学、地理学、人類学、国際関係論、国際開発論という幅広い専門分野からなっている。新入生は、さまざまな入門的授業を受けた上で、1年次の秋に自分の専門を選

び、2 年次から専修課程に所属する。「伝統と革新」をキーワードに、人類がこれまで積み重ねてきた学問・文化を吸収して深める一方、急速に変わりゆく現代社会に対応できる知識と実践力を身につけることを目指す。

五つの専修課程と、11 の専攻からなっている。専修課程は、グローバル・ガバナンス、現代社会、哲学歴史、ヨーロッパ・アメリカ文化、日本・アジア文化の五つである。専修の中にそれぞれ、2～3 の専攻が含まれている。

経済学部は文理学部を改組して 1965 年に設立された。経済学科と経営学科の 2 学科で始まった。1992 年には経済短期大学部（1954 年開設）を経済学部合併し、学部社会環境設計学科が加わり 3 学科となった。この際、全学科に、主として夜間に授業を行うコースを設けた。翌 93 年には大学院の経済科学研究科が設置されている。



埼玉大学マスコットキャラクター「メリンちゃん」

2015 年には経済学部の教育体制を抜本的に改善し、四つのメジャーから構成される専門教育体制を導入した。入学直後の初年次教育で、入門科目や学部基礎科目を学び、「プレゼミ」に所属する。1 年修了時には所属するメジャーを選択する。メジャーには「経済分析」「国際ビジネスと社会発展」「経営イノベーション」「法と公共政策」の四つがあり、学部学生はどれかのメジャーに属し、それぞれの必修科目、選択必修科目、演習（ゼミ）、卒業研

究を一步一步学んでいく。また、複眼的な思考力を身につけるために、他のメジャー科目を体系的に学ぶことによって「マイナー」が認定される。さらに、各メジャーには英語の専門科目が必修として配置されると同時に、すべてのメジャーに共通の選択科目として、英語による「日本研究」科目が用意されている。

三つの大学院のうち、人文社会科学研究科は、2015 年、文化科学研究科と経済科学研究科を統合する形でスタートした。体系的なカリキュラムと様々な教育のプログラム、丁寧な研究・論文指導を通じて、現代社会に貢献する人材を育成する。

教育学研究科は、学校教育に関わる理論的かつ実践的な研究と教育を行うことにより、教育水準の向上に必要な専門的な力量と研究能力を豊かに備えた大学院生を養成する。教育学研究科修士課程を母体として、東京学芸大学、千葉大学、横浜国立大学との連合で開設されている連合大学院（博士課程）があり、同大学院に進学した場合には、入学金が免除される。



空から見るキャンパス

理学部と工学部の上に設置された重点化大学院が理工学研究科である。教育部と研究部

からなり、教育部には博士前期課程と後期課程がある。前者を修了すると修士（理学または工学）の学位、後者を修了すると博士（学術、理学、工学のいずれか）の学位を取得できる。

海外教育機関との連携をみると、大学間交流協定を締結しているのは118校、部局間の交流協定は47部局に上る。（2022年9月現在）外国人留学生の数は学部、大学院など合わせて579名で、このうちアジアからが89・5%を占めている。（2021年5月現在）

大学への留学に関しては、正規留学（学部、大学院）、交換留学、研究生、国費外国人留学生などがある。それぞれ、奨学金制度があるほか、在留手続き、留学生が日本で生活する上での生活ガイドなどの相談を受け付ける窓口があり、対応してくれる。

2015年のノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章氏は、埼玉大学理学部物理学科の卒業生である。氏は同学科を卒業後、東京大学大学院理学系研究科博士後期課程を修了、現在は東京大学宇宙線研究所の所長（第8代）・教授であり、第30代の日本学術会議会長でもある。あらゆる物質の最小単位である素粒子の仲間である「ニュートリノ」について、わずかながら質量があり、姿を変えるというニュートリノ振動を発見したことを理由に、ノーベル賞を受賞した。埼玉大学では、これを記念し、次世代の若手研究者の育成を目指して、2018年に梶田隆章賞を設立している。



本学卒業生梶田隆章先生ノーベル物理学賞受賞記念講演会・植樹式（2016年）

大学全体の学生数は、学部が 6688（うち女性 2260）名、大学院が 1178（うち女性 235）名である。教職員数は、附属学校を含め 721（うち女性 174 名）である。（以上 2022 年 5 月現在）



卒業式

学長は坂井貴文氏である。群馬大学教育学部卒、同教育専攻科終了、医学博士。埼玉大学へは理学部講師、理学部助教授、教授などを経て、2012 年から理学部長、2020 年から現職。生物学者であり、専門は内分泌学。

日文：滝川 進
写真：埼玉大学 FaceBook